

★変異型のウィルスは、ゲノムの一つが置き換わったため、脅威となったもの

タンパク質はたくさんのアミノ酸が直線的につながってできているので、各アミノ酸の位置と種類を示すために N501 のような標記をする。つまり、野生型（変異していない元の）ウィルスでは、501 番目のアミノ酸がアスパラギン（N）であることを意味する。

一方、N501Y は、501 番目がチロシン（Y）というアミノ酸に変わった（変異した）ことを意味する。同様に、E484K は野生型ではグルタミン酸（E）であった 484 番目のアミノ酸がリシン（K）になった変異を示す。

N501 → N501Y (Y501)

N	→	Y	アスパラギン (N)	AAC	→	チロシン (Y)	TAC	A	→	T
				AAT	→		TAT	A	→	T

E484 → E484K (K484)

E	→	K	グルタミン酸 (E)	GAA	→	リシン (K)	AAA	G	→	A
				GAG	→		AAG	G	→	A

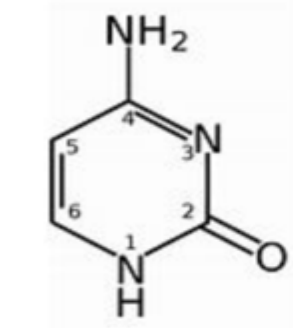
K417 → K417N (N417)

K	→	N	リシン (K)	AAA	→	アスパラギン (N)	AAC	A	→	C
				AAG	→		AAT	G	→	T

事実、塩基変異の例に、脱アミノ化、メチル化により、次のような事例があり、何らかの理由で、以上述べた変異が行われたものと思われます。

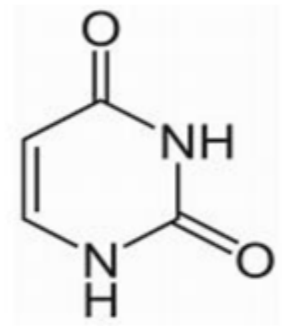
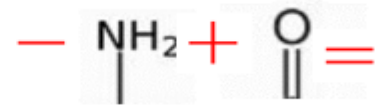
塩基変異

シトシン (C) → ウラシル (U)



Cytosine

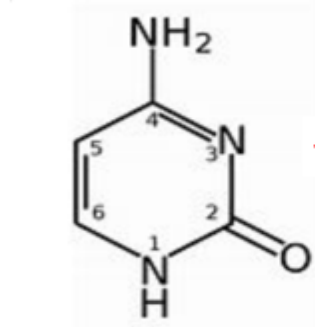
脱アミノ化



Uracil

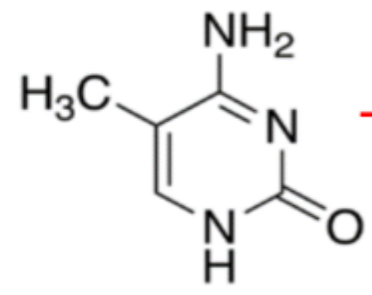
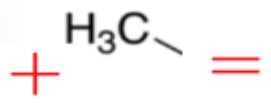
塩基変異

シトシン (C) → メチルシトシン → チミン (T)



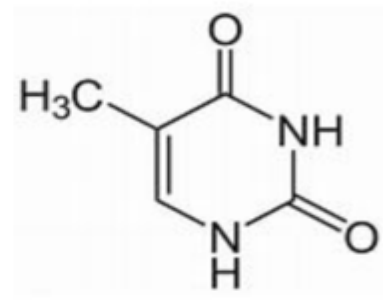
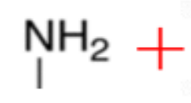
Cytosine

メチル化



5-Methylcytosine

脱アミノ化



Thymine